
君が微笑み、私は泣いた。

ミッシ・ゴッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君が微笑み、私は泣いた。

【Nコード】

N5286F

【作者名】

ミッシ・ゴッシュ

【あらすじ】

強大な敵を前に、最愛の者が倒れて行く。

其処は見渡す限りの広大な平原が広がっていた。

漂うのは新鮮な若草の香りと濃厚な血の臭い。

「はあはあ……… ったく、何死んでんのよ、エミリオ」

女の息は荒く、眼差しの先の男は満足気に微笑んでいた。

その男の腹部から垣間見えるのは、今し方刻まれた裂傷から溢れる夥しい量の赤黒い血液と、外界に放り出された臓腑。それらは男の死を鮮明に、そして無情にも示唆していた。

女は、エミリオの手に力無く握られた剣を、乱暴に奪う様にと、己が持っていた折れた剣を男の命を奪った魔獣に目掛け投げ付けた。

魔獣は投げられた剣を、まるで羽虫でも払うかの様に軽々と払い除ける。そして、魔獣は勝利を確信したかの様に高らかに咆哮すると、血糊の付着した腕を振り上げながら女に向かい突進した。

「掛けて来な！ テメエは絶対私が殺す！」

女は、敵の攻撃に備え身構えるが、足下は覚着かず手足の震えは増すばかり。幾等気丈に振る舞おうが、その頬を伝う涙は一行に止まらない。

エミリオと云う心の支えを失いし今、女の瞳に光りは映らなかった。ばやけた視界の中、女は死を覚悟する。

魔獣の鋭利な爪が女の腹部を易々と貫き、勢いそのままに肩胛骨に喰らい付く。

「エミリオ……… 今逝くよ」

それが女がこの世に遺した最後の言葉となった。

暗い室内にぼんやりと明かりが灯され、徐々に暗闇は隅の方へと追いやられて行く。

「最後の方、微妙じゃね？」

「そう？ 私は好きだけど」

男は女の手を取り、足早に席を立つ。半分近く残ったポップコーンを置いたまま。

2008/02/12

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5286f/>

君が微笑み、私は泣いた。

2010年12月14日18時37分発行